書 評

発達障害も愛着障害もこじらせない
―もつれをほどくアプローチ―

村上伸治　著
日本評論社
2025 年 6 月　264 頁
本体価格　2,700 円＋税

発達障害の増加は，おそらく診断分類の改良のせいではなく，明らかに増大しているというのが臨床現場の実感です．それに伴い，論説の類も増えています．それらは 2 つに分類できます．本書の末尾の参考文献リスト（258～260 頁）を見ると，「精神発達」についての，1 つの群は科学的・哲学的・診断分類学的な文献が多く記載されている論文で，発達障害を含め，臨床・治療関係，に手を出さない，いわゆる研究者の論文です．もう 1 つの群は手を出して「こじらせて」，散々な目に遭って，距離をとることにした臨床家の論文です．失敗例や難治例や副作用についての文献が収載されています．ともに，整った・常識的な学術論文です．そうした 2 群とは別に，「こじらせて」，苦労を重ねても懲りずに，そこを学びの場と心得て，工夫を続ける，第 3 の少数派があります（論文を書かない，多数の現場の人を含みます）．村上さんもボクもその治療職人に属します．本書に収載された論文の初出一覧（261～262 頁）を見ると，治療現場での工夫のヒントとしての，論述が大部分です．その村上さんが，ご自身の脳から溢れでる経験群を，何とかまとめたのが，本書です．すなわち，「現場職人からの語り」です．

第 I 部「発達障害をこじらせない」の第 1 章は，現時点での完成形としての，「無害・有益」な面接技術の例示です．読者は，無害な（患者サポートとなる）面接技法の実例として，雰囲気を想像しながら，味わってください．通常の面接技術への示唆にもなります．第 2 章は「その子に合った」がキーワードです．それを拾い上げるのが，治療・子育ての技術です．「合わない」対応はすべて「いじめ」です．それに続く，第 7 章までの第 I 部は，著者が到達した技術水準の，教科書的まとめです．「診断というゼロ百思考」などは，身に刺さりましょう．第Ⅲ部「もつれをほどく精神療法」を成す，第 17 章～22 章は，「いじめ」にならない対応の具体例ですから，第 I 部に続けて，このⅢ部を読まれるのがお勧めです．なぜなら，第Ⅱ部「愛着障害・トラウマの延焼を防ぐ」は，著者へ認識をもたらした，臨床の体験群であり，すべての論述が，実例を伴って，「解りやすい」ので，そのせいで，実例のことごとくが，治療現場を日常とする読者の，「悔いの体験」をフラッシュバックさせる危惧があるからです．ですから，覚悟を決めて第Ⅱ部を読まれると，上質のスーパービジョンの効果があります．第 12 章「トラウマに焦点を当てない治療」などは，「正しい診断と正しい治療」という，教科書的教条に対する，「援助者」としての精神科現場治療者，からの反論です．続く第Ⅲ部は，熟達した先達による，後輩への助言です．従来の精神療法教本が取りこぼしている，現場での知恵群，が満載です．第 18 章の，体系化された「精神療法あれこれ」の，「副作用」についての注意なども，実務者には有益な助言です．

最後に，これほど充実した実務書を書き進むには，常に「原体験の心身」のフラッシュバックを必須としますから，疲労は深刻です．それは読者も同様です．幸い，良質の本は，本の小口から，素晴らしい「気の噴出が」あります．書店で，題名に騙されずに「良書」を選ぶ「コツ」です．本書の小口に，薬指を当ててごらんなさい．このような，良い気を噴出する本を寝床で読み，そのまま入眠するのは，手間いらずの，癒しの「コツ」です．著者のみならず読者も，しばらくの間，枕元にこの本を置いてお休みください．ボクもそうします．

（神田橋條治）

doi：10.57369/pnj.26-014